



全国曹洞宗青年会の 活動紹介(七十五)

令和七年一〇月二六日、「第一一回つるみ夢ひろば in 總持寺」が開催されました。この催しは大本山總持寺と地元である鶴見区の方がたとの交流や、災害復興支援などを目的としており、後者に関しては特に能登半島地震・總持寺祖院復興支援がテーマとして掲げられていました。今年度は鶴見大学の学園祭である「紫雲祭」とも合同して開催されました。全国曹洞宗青年会からは災害復興支援部の高杉春輝事務局長をはじめ、総合企画、広報、教化、国際の各委員会からそれぞれ一名ずつが参加



「第一一回つるみ夢ひろば in 總持寺」 参加報告

総合企画委員 佐藤 宗良
さとう せつりょう

し、得難い経験を共有することができました。

当日の天気はあいにくの雨でしたが、全曹青のブースはちょうど「相承三尊像」の前に位置しており、瑩山禪師、峨山禪師、そして明峰禪師に見守られながら活動を行いました。ブースでは主に子どもたちを対象とした塗り絵、東日本大震災や能登半島地震などにおける災害復興ボランティアのパネル展示、ボランティア基金への募金、そして今回初めての試みとして防災セットの見本の展示を行いました。



塗り絵コーナーでは子どもたちが仏教を題材にした塗り絵を思い思いに楽しみ、仏教との縁を深めていました。点つなぎという少し難易度の高いものもありましたが、「これやりたい！」と積極的に挑戦する子もいて微笑ましかつ

たです。

また、今回展示した防災セットには、マスクや絆創膏、ウェットティッシュのような普段馴染みのあるものに加え、防寒保温用のアルミシートやライト付きのペンなど、まさに災害時に使えるグッズが含まれていました。来訪者の方がたに防災意識を高めていただきたいのと同時に、子どもたちもそれらの防災グッズを珍しがって楽しんでいました。

災害復興ボランティアのパネルについては、東日本大震災や能登半島地震の際の、全曹青のボランティア活動の写真を展示しました。ブースに立ち寄られた多くの方がたに全曹青のボランティア活動について

知っていただき、さら

には「ほんの少しですけど」と言ってお募りもしてくださり、大変ありがたい気持ちになりました。

参加した全曹青会員の感想には、「地域の方がたとの交流を深めることができ、また、防災グッズの紹介を通して自らの防災意識も高めることができた」というものがありました。私も同じく、この行事を通して人々と交流して防災意識を向上させることができ、大変貴重な経験を積むことができました。



●執筆者プロフィール
佐藤宗良

いずも曹洞宗青年会 所属